

中心静脈（CV）ポート留置説明と同意書

【病名・症状】 []

全身状態の悪化や誤嚥などで経口的に十分な栄養が摂取出来ない状態、または、末梢の血管からの点滴が困難な状態です。

1. 処置名：中心静脈カテーテル挿入およびポート留置

2. 処置の目的：全身状態の改善のために中心静脈から点滴を施行します。点滴のたびに血管に針を刺す苦痛を軽減出来ます。点滴に必要な水分・栄養を補うことが可能になります。通常の点滴と異なり、高濃度の栄養や特殊な薬剤を投与することも可能で、全身状態を改善することも期待出来ます。中心静脈カテーテルは問題がなければ長期間留置したままに出来ます。ポート留置は体表に露出した中心静脈カテーテルと異なり、感染や自己・自然剥がれなどの問題を激減出来ます。また、針を抜くことで湯船につかることも出来ます。

3. 処置の具体的な方法：局所麻酔を行い、首の近くや股の近くの血管に針を刺して、カテーテルという細い管を挿入します。カテーテルの先端は心臓近くの太い静脈（中心静脈）へ置くようにします。カテーテルをポートと呼ばれる 500 円硬貨程度の器具に接続し、皮膚に小切開を加え皮下に埋め込みます。ポートは頻回の穿刺に耐えられるので、ここに針を刺して注射を行い、不要な時は針を抜きます。

4. 処置に伴う合併症：中心静脈カテーテルは患者様に大変大きな利点がありますが、次のような問題点もあるので、ご理解いただきたいと思えます。表の中のカッコは文献などに示されている割合です。

動脈穿刺・出血（0.5～6.25%）	輸血が必要なことがあります。内頸静脈での出血は窒息などの危険があります。カテーテルを抜去することもあります。
気胸・血胸（0.1～3.1%）	首の近くの血管にカテーテルを挿入する際に、胸膜・肺に傷がつく可能性があります。肺に血液や空気が入り呼吸困難の状態となる可能性があり、その際は肺に直接チューブを挿入することがあります。
不整脈（頻度不明）	カテーテルなどの刺激で不整脈が発生する場合があります。不整脈の種類によってはそれを止める処置が必要となることがあります。
感染（1000 カテーテル留置日数あたり 0.2 回）	カテーテルが感染の原因になることがありますが、ポート留置は、カテーテルのみを留置する場合より圧倒的に少ない頻度です。抗生剤を使用し、場合によってはカテーテル・ポートを抜去することもあります。

※ また、他にも頻度の低い合併症や、予測出来ない合併症が併発する可能性もあります。

5. 費用について：治療費は合併症が発生した場合も含め、健康保険の適応となります。

6. 撤回と保留：検査の説明を聞かれて、同意されない場合は保留や中止することも可能です。

以上、説明を受け納得しましたので同意し署名します。

_____年 _____月 _____日

患者氏名 _____

患者代理人氏名 _____ 続柄（ _____ ）

同席者氏名 _____ 続柄（ _____ ）

説明医師氏名 _____

同席看護師氏名 _____

※署名後、コピーして患者・家族に1部渡し、原本は入院録に保存